

プロジェクト 研究代表者	所属学系 経営学系 氏名 奥本英樹
研究課題	リレーションシップ型金融が顧客企業及び金融機関相互の業績に与える影響の研究
成果の概要	<p>当該研究は、リレーションシップ型金融仲介が仲介を受ける顧客企業と仲介を行う金融機関相互の企業業績にどのような影響をもたらしているのかについて、経済学的視点から分析することを目的としたものである。すなわち、より詳しく言い換えれば、当該研究の目的は、リレーションシップ型金融仲介の経済的合理性がどのような点に、どのような形で存在するのかを明らかにすることである。</p> <p>こうした目的のもと、当該研究の平成20年度における取り組みでは、上記のテーマにかかわる先行研究のレビューを中心に行った。ここでは、理論研究と実証研究の両面から、諸外国およびわが国の研究をレビューし、それらの成果と問題点の把握を行った。具体的には、リレーションシップ型金融仲介の経済的合理性に関して、それが情報非対称性の解消によるエージェンシーコストの削減やソフトな情報の入手によるレントシーキングにあるとする成果が報告されている一方、それらの実証研究は、とりわけわが国においてほとんどなされておらず、また、欧米諸国とわが国では銀行の業務実態に大きな差異があると考えられることから、そうした点を加味したさらなる研究が必要であることを確認した。</p> <p>このレビューによる成果は、平成20年10月24日に本県の有力地銀である東邦銀行との協同研究会である「会計戦略会議」において報告された。</p> <p>また、こうした成果は21年度において論文として報告する予定である。さらに、今後の展開として、本県の金融機関やそれらの顧客である一般事業会社との協力を得ながら、各種のデータを用いて実証研究を行い、当該研究の目的に即した知見を得ようと考えている。したがって、今年度も昨年度に引き続き、先行研究のレビューを進めながら、理論モデルの作成とその精緻化、さらには実証モデルの構築を行うとともに、財務データなどの定量データおよびインタビューなどによる定性データの入手を試みていきたいと考えている。</p>